

1 主体的に学び合う算数科の授業づくり

学びに向かう意欲を高める「つかむ」段階

考えを深めたり広げたりする「学び合う」段階

「まとめる」段階

問題提示

見通し

自力解決

集団解決

まとめ

振り返り

求める姿

興味・関心を持つ
・「解いてみたい」という興味・関心や「どうしてだろう」という疑問を持っている。

既習との違いを考える
・前時までの学習と違うことは何かを考え、既習の内容が使えるかどうかと思っている。
・方法や結果を予想している。

自分の考えを持つ
・見通しをもとに自分の力で表現（言葉や図、式、表やグラフ、計算）しようとしている。

考えを深めたり広げたりする
～目指す学び合う姿～
【低】自分の考えを持ち、友達の考えを聞いて一緒に解決しようとする。
【中】既習を使って考え、友達の考えと比較しながら、よりよい方法で解決しようとする。
【高】既習を使って自分なりに考え、友達の考えと比較・検討しながら、よりよい方法で解決しようとする。

自分の言葉でまとめる
・何を学習したのかを考えている。

分かった・できた
・自力解決よりも、「分かった」「できた」と感じている。

大切にしていること

視点1-①
興味・関心や疑問などを引き出す学習問題の設定

・日常生活や他教科の学習と関連させて、児童が問題場面を具体的にイメージできるように提示する。



視点1-②
問題解決につながる課題設定や見通しの持たせ方

課題設定
・既習との違いや疑問を引き出す発問
・児童のつぶやきを生かした学習課題
・まとめを意識した学習課題
見通し
・方法の見通し
・結果の見通し

・短時間でどこまで分かったか、何が分からないかを整理させる。
・児童の学習状況を見取る。
・児童を認め、励ます言葉掛けをする。



視点2-①
ねらいを明確に意識させた学び合い



・本時の目標の達成に向けて、何を学び合わせるのかを考える。
・必要に応じて学習形態を工夫する。

ペア	グループ
<ul style="list-style-type: none"> 多くの児童に話させたい。 操作しながら説明させたい。 発表へ自信を持たせたい。 短時間で話させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 考えをいくつかの類型に集約させたい。 グループでまとめる活動をさせたい。 どの方法がいいか考えさせたい。
隣同士、前後、自由に動いて	生活班、同じ考えの人、違う考えの人、自由に

視点2-②
学び合いを深めるための問い返し



・児童の考えを深めたり、広げたりするために、児童の表現に対して意図的に問い返す。

▶ 児童の表現（つぶやきや発言、ノート）への問い返し

考えを確かめる
<ul style="list-style-type: none"> …とはどんなこと（意味）ですか。 …どんなことが分からないですか。
考えの根拠を尋ねる
<ul style="list-style-type: none"> なぜこれで正しいと言えるのですか。 なぜそう考えたのですか。 なぜ…になったのですか。
考えのよさを共有する
<ul style="list-style-type: none"> この考え（図、式、表など）のよさはどんなところですか。 …が分かりやすいと感じたのはどの部分ですか。
多角的・多面的に考える
<ul style="list-style-type: none"> この式を図で表すとどうなりますか。 もっと簡単にできないでしょうか。
考えをゆさぶる
<ul style="list-style-type: none"> …を他の数でも同じことが言えますか。 （正答に）本当にこれでよいですか。 （誤答に）これで求められますね。

・児童の言葉を生かし、課題とつながるようにまとめる。

適用問題
・本時の学習に合う適用問題の内容と量にする。
学習感想・自己評価
・学習内容に応じて振り返らせる。



▶ 実践例

日常生活や
他教科との関連

・行事での体験を想起
・他教科などとの関連
ゲーム的な仕掛け

・図形のシルエットの提示
・大きさ比べ
情報不足

・絵や表の一部提示
・解決に必要な数値の一部
問題づくり

・場面絵から作る文章
問題

▶ 学習課題を見付けさせる
発問

・「今までの学習と違うことは何でしょう。」
・「何が分からないですか。」
・「分かっていることは何ですか。」
・「気付くことはありますか。」

▶ 方法の見通しを持たせる
発問

・「どんな方法を使えば求められそうですか。」
・「何算になりそうでしょう。」

▶ 結果の見通しを持たせる
発問

・「答えはどれぐらいになりそうですか。」
・「答えはどれでしょう。」

▶ 認める、励ます言葉掛け

・「よく考えたね。」
・「なるほどね。」
・「もう少しできるね。」
・「さすがだね。」
・「できたね。別な方法でもやってみよう。」
・「その調子。」

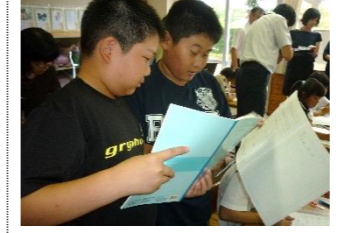


▶ 学び合いのねらいを意識させる発問

拡散を意識する
・「他の解き方を考えましょう。」
・「いろいろなやり方で解いてみよう。」

収束を意識する
・「どの考えがよいでしょう。」
・「正しい答えはどれでしょう。」
・「速く正確にできる方法はどれでしょう。」
・「いつでも使える方法はどれでしょう。」

類似を見付ける
・「共通することは何でしょう。」
・「きまりを見付けましょう。」



実践例・発問・言葉掛け例

▶ 振り返りの観点

振り返りのポイント
○ 分かったこと
○ 友達のこと
○ 次に生かしたいこと

・「今日の授業で分かったことを振り返りましょう。」
・「分かったことと次に生かしたいことについて振り返りましょう。」
・「学習が分かったかどうか記号で書きましょう。」

(◎, ○, △/A, B, C)



